

## 情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
木材・木製品	製材業	原木は、伐り旬と好天候に恵まれ、出材は順調であるが、価格は製品の低調な荷動き、安値販売などにより、需給は急激に緩み始め下落している。製品も依然として住宅実需の低迷、引合いも伸び悩みが続いている。住宅価格の上昇で、消費者マインドは相当冷え込んでいるものと思料する。
木材・木製品	製材業(プレカット)	3月の予想実績(量)は前年をやや下回りそうである。加工売上高は前年並みになりそうである。3月は当組合の決算月であるが、最終の数字は前年をいくらか上回りそうで、住宅(持家)の着工数が落ち込み中、非住宅に依存しながらではあったが、ある程度いい結果を残せそうである。問題は来年度で、人件費やその他の経費が上昇する中で、数字を確保できるか心配である。
木材・木製品	木製品製造業	前年同月と比較すると、業況はわずかに上向きになってきたが、物価上昇の影響は避けられない。
印刷	印刷・同関連業	原材料費の上昇は、なかなか止まらない状況である。それに給与ベースの上昇が重なり、経営を圧迫している。需要については統一選挙等による上昇に期待をしているが、思うようにはならない現状である。
印刷	印刷・同関連業	新型コロナウイルスによる制限が緩和される状況下で、わずかながら需要は上向いているが、相次ぐ原材料の高騰により、利益の確保が難しくなっている。各分野において値上げが相次いでいるので、従業員の賃金の見直しは急務であり、その原資の確保も必要となってくる。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	3月に入ってすぐに昨年出荷数量を超えた。一部の地区の民間大型物件が数量増加に貢献し、値上げの価格転嫁と相まって適切な利益を確保できた。利益はすべて組合員に還元するが、人手不足対策として、組合員従業員のペースアップをお願いする予定である。
窯業・土石製品	窯業・土石製品製造業	3月は昨年同月比105%を見込むが、組合員全社の赤字は免れない。期末まで残り僅かであるが、組合創設以来最低の10,500m程度の出荷(前期比72%)となりそうである。
小売業	たばこ販売業	昨今の健康増進法の改正や受動喫煙防止条例による喫煙規制強化により、たばこ店は大きな影響を受けている。しかし最も困惑し被害を被っているのは愛煙家であり、限られた喫煙場所を求め肩身の狭い思いをしながらたばこを吸っている。現在、各地で地方たばこ税を活用した分煙環境整備がJTや地方公共団体の支援を得ながら進められているが、今たばこ店が直接できる活動としては、やはり店頭への灰皿設置が最も有効ではないかと思われる。愛煙家の喫煙機会の増加や消費場所の拡大となり、たばこ店の売上げアップにダイレクトに結びつくとともに、地域を潤すたばこ税の増収へとつながっていく。灰皿設置はたばこを吸う人と吸わない人が共存できる社会を実現するための一番の近道になりそうである。
小売業	小売商業	当月は大型競合店舗乱立によるオーバーストアの状況の中、先月末の近隣スーパーの閉店により、消費者の動向に顕著な変化が見られ、売上で10%、集客で20%程度の前年比増で推移した。特にスーパーの店舗内に併設されていた100円ショップの閉店により、市内の100円ショップは当店のみとなり、その影響が大きく、若い世代の集客に繋がらなくなった。厳しい経済状況の中、同業他社も撤退を余儀なくされる状況であり、いつまで耐えられるかの瀬戸際にある。
小売業	LPGガス小売販売業	3月CP価格(サウジ通商価格)は720円/トン(前月比△70円/トン)。2月MB価格(米国产平均価格)+(米国物流経費84円/トン)は515円/トン(前月比△7円/トン)。対顧客電売相場(2月平均)は133.75円/トン(前月比+2.40円/トン)。前月に引き続き中国の経済活動再開によるエネルギー需要回復への期待感に加え、トルコで起きた地震による供給懸念等により原油市場は若干上昇。LPG価格は需要期の終焉が見えつつある中で若干の下落となった。
商店街	延岡市	コロナも落ち着き、商店街も少しずつ活気が戻ってきたが、従業員の確保に大変苦慮しており、新たな困難に直面している。
商店街	宮崎市	周辺の物販小売店が減少している。
商店街	都城市	通常の営業に戻りつつあり、人の往来も多く、街がにぎやかになってきたが、原材料の高騰が大きな課題となっている。価格転嫁の難しい店舗からは閉店の相談も出てきている。
サービス業	観光業	観光業界は少しずつ回復しつつあり、全国旅行支援も手伝って、ツアーも増えてきた。コロナ感染による規制緩和もあるが、サービスを提供する担い手として、感染対策をとりながら、日々の業務に務めていきたい。
サービス業	自動車整備業	今月は忙しいと感じるが、例年並みの忙しさまではあまり感じられない。入庫については例年並みである。
サービス業	不動産業	仕入価格の上昇で工事価格の上昇が懸念される。
サービス業	測量設計業	災害による多忙も収まってきたものの、年度末工期による残務が残っている状況である。
建設業	管工事業	宮崎市の令和5年度当初予算案が公表された。水道事業として前年度比+2.4%の13,940百万円が計上され、配水管の耐震化、更新事業として1,396百万円が計上された。
建設業	管工事業	マスク規制も緩和され、今後の経済活動は活発になると予想されるが、インフルエンザのように特効薬がまだない中で、感染の再拡大が心配される。管工事業界においては流行期においてもそれほど大きな影響がなく、これからも同様に推移すると考えられる。
運輸業	軽貨物運送業	引越しシーズン前ということもあり、インターネットによる見積りの問合せが毎日10件から20件程度あるが、成約するのは10%程度であり、その対応に追われ、他の業務に支障をきたしている状態である。便利になったのは良いことであるが、他の引越専門業者にも同様の問い合わせが多く、苦勞しているようである。一般貨物の荷動きは、進学シーズンも重なり、小引越等が伸びている。燃料関係はどうしようもなく高止まりであり、この状態は当分の間続くものと考えられる。組合員の高齢化も深刻であり若手の新規開業者が皆無の状態である。
運輸業	貨物運送業	原油価格は高止まりの水準で僅かに上げ下げを繰り返しているが、ゼロコロナ終了後の中国に対する景気回復の期待感や、ロシアが3月の産油量を5%削減するとの報道に対し、OPECプラスもロシアの減産を補うような増産はしないと報じられたことから上昇すると見られ、それに伴い国内燃料価格も値上げとなる見込みであり、組合員は苦境に立たされている。